

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2018.7/8

# 国立国会図書館 月報



第53回貴重書等指定委員会報告 新たな貴重書のご紹介

本の森を歩く 戯作者が見た江戸後期の相撲

資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ



687/688号 2018年7/8月

# 国立国会図書館 月報

NO.687 / 688  
JULY / AUGUST 2018

## CONTENTS

- 1 『梨園之秋』と『芦のそよぎ』  
—鳥熊芝居の資料二点  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 第53回貴重書等指定委員会報告  
新たな貴重書の紹介
- 13 本の森を歩く 第17回  
戯作者が見た江戸後期の相撲  
立川焉馬の著した相撲関係資料
- 20 資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ⑦  
お手紙は変体仮名で

- 12 館内スコープ  
モター越しにみる古典籍のデジタル化あれこれ
- 26 本屋にない本  
『時計屋さんの昭和日記』
- 27 開館70周年記念展示 本の玉手箱  
—国立国会図書館70年の歴史と蔵書—から⑤  
『愛のファンタジー』
- 28 NDL TOPICS



表紙：  
前川千帆 著『日本風景版画 軽井沢之部』  
昭和4（1929）年 創作版画倶楽部  
図版5枚 24×33cm  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1150573>  
(モノクロ画像)

# 『梨園之秋』と『芦のそよぎ』 ——鳥熊芝居の資料二点

伊藤りさ



宣伝ビラ「當月四月吉日右(より)本郷春木町春木座繪番附」の写し。『芦のそよぎ』より

## 梨園之秋

竜田秋錦編輯 [書写地不明] [書写者不明] 1冊 <当館請求記号 205-107>

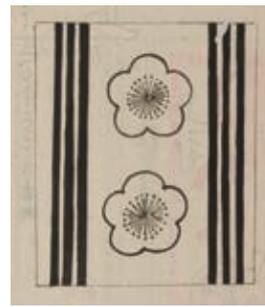
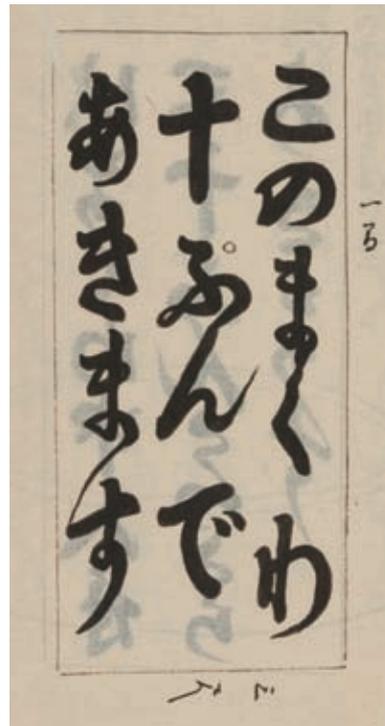
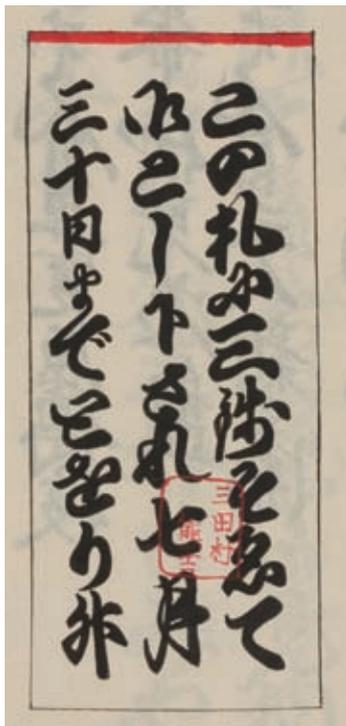
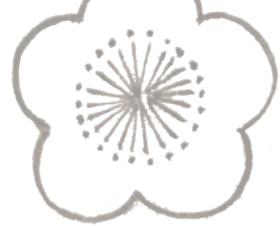
## 芦のそよぎ

竜田秋錦編輯 [書写地不明] [書写者不明] 1冊 <当館請求記号 232-276>

明治十八(一八八五)年から十九年にかけて、東京で大評判となった歌舞伎興行があった。本郷・春木座で行われた、いわゆる「鳥熊芝居」である。明治十八年五月から翌年三月まで、一年足らずの期間ながら、それまでの東京の大劇場の興行方式とは全く違う、上方風の興行方法と徹底した観客サービス、破格の低料金に加え、役者もそれなりの陣容を揃えているとあって、大変な人気を集めた。「鳥熊」は、この芝居を仕掛けた大阪の興行師「鳥屋熊吉」の名に拠っている。

古典籍資料室では、この興行の番附・切符・配布物のほか、劇場内で用いられた様々な道具などを筆写した『梨園之秋』という資料を所蔵している。編者は竜田秋錦。序文によれば、鳥熊芝居の上方風が物珍しく、広告から場内の配布物に至るまで何でもかんでも集めたが、「たゞに<sup>かいやらん</sup>勿棄もさすがなればのち〜にいたり同好諸諺の弄戯の一助にもならんかと」摸写したものと云う。

この資料は歌舞伎研究者らにはつとに知られているものだが、実は、当館ではこの『梨園之秋』とそっくりの資料をもう一冊所蔵しているのである。書名は『芦のそよぎ』。『梨園之秋』と比較すると、筆写の字配り等、細部の体裁は異なるものの、内容はほ



右上から時計まわりに、場内係「お梅」のそろいの浴衣の柄、お茶セット、幕間が10分であることを伝える案内、入場券の裏に刷られた割引案内。『梨園の秋』より

## ■ここが魅力！鳥熊芝居■

- 毎月新しい演し物で興行（通常、大劇場は毎月演目を変えることはしなかった）。
- 安価な入場料（6銭）。前売りはせず、当日の先着順に販売（栈敷席は前売りあり）。早朝に来場した客には割引券（次回は3銭で観劇できる）を進呈。
- 入場料以外の敷物代などは不要。
- 芝居茶屋\*は通さない。湯茶は無料。弁当持参可（場内でも弁当や菓子などを販売）。
- 下駄を無料で預かり、きれいに洗って風呂敷に包み、預かり札と引き換えに返却。
- 客の用事を承る「お梅」という女性の場内係を配置。祝儀は不要。（右上図参照）

\*劇場の付近で、観客の案内・食事・休憩などの世話をした施設。上等席の切符の手配もした。

ほぼ同一と言ってよい。題簽の書名が異なるが、いずれの資料も巻頭書名（本文の最初に記載された書名）は「芦のそよぎ」なので、むしろそちらが正式な書名なのかもしれない。

蔵書印や書入れから、『梨園之秋』は明治時代の劇評家、幸堂得知（一八四三～一九一三）と築地海運橋傍の紙商、樫崎海運（～一九〇〇）が、『芦のそよぎ』は浮世絵商、小林文七（一八六一～一九二三）が所蔵していたことが知られる。

おもしろいことに、この二冊は同じ箇所を同じように訂正した跡がある。いずれにも朱字や貼紙などで訂正を施した箇所があるのだが、それが両者でほぼ一致する。要するに、底本の間違いを一旦そのまま筆写した上で、わざわざ訂正しているわけだ。さらに興味深いのは、『梨園之秋』には同じ文章を重複して写してしまっている箇所があるが、一方の『芦のそよぎ』は、その部分を写し損ねて文章がなくなっている（しかも、一文まるまる抜けているのではなく、文章の途中から写しているの、文そのものが成り立っていない。）（左ページ参照）。ともに同じ箇所を写し損ねている（ミスの性質は異なっているが）ことから想像すると、底本のこの部分に、用箋の破損や

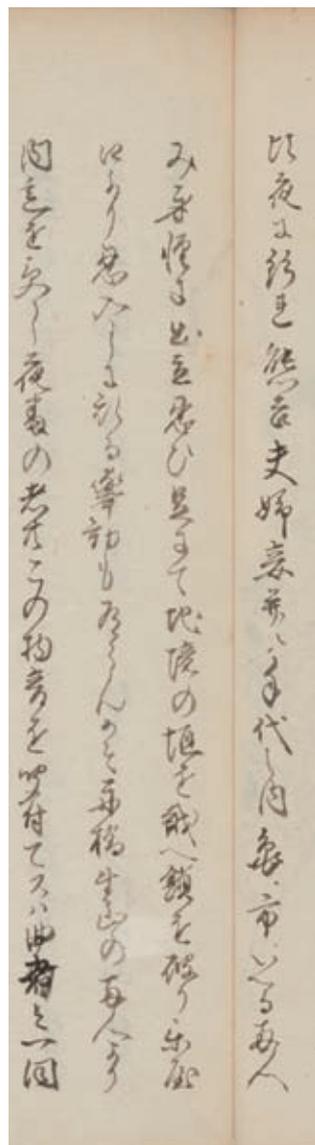


○参考文献

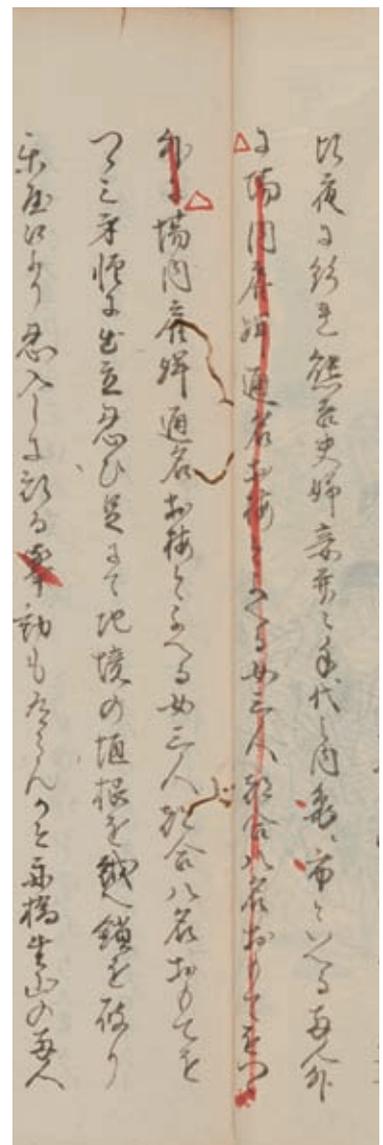
- 文京ふるさと歴史館編『本郷座の時代(平成8年度特別展図録)』文京区教育委員会、平成8年  
 川添裕「勢州松坂鳥屋熊吉(上)」『歌舞伎 研究と批評』27(平成13年6月)  
 服部幸雄「鳥熊芝居の興行」『歌舞伎の原郷』吉川弘文館、平成19年

興である。

鳥熊芝居は、斬新な上演形態や低料金、客本位のサービスなどで当時の東京の民衆を大いにひきつけ、注目を集めた。だからこそ、このような「まとめ」資料が作られたのだろう。ここに収められた情報は恐らく、当時の人々にとっては甚だ新鮮に感じられた事柄なのだと思う。紙面を眺めながら、鳥熊芝居がなぜそんなにも当時の観客を魅了したのか、想像してみるのも一



『芦のそよぎ』。『梨園の秋』の画像の1行目最下部「外」から、4行目2文字目「>」までが抜けている。



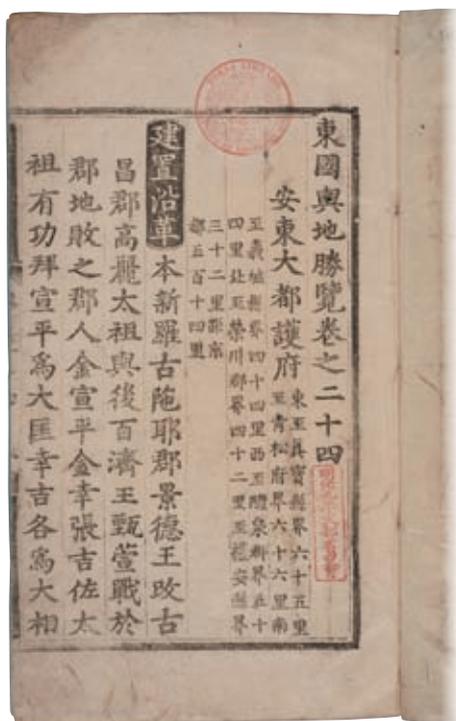
『梨園の秋』。朱線で消した箇所最後の部分が、「つゝ外に」となっており、文章が繋がっていない。丁が変わる箇所でも移りしたものが、この前後で同じ箇所を2度筆写している。

文字・行の乱れなどといった何らかの不備があり、目移りしてしまったのかもしれない。いずれにせよ、これらのことから『梨園の秋』『昔のそよぎ』ともに、竜田秋錦の手による原本ではないと思われるが、二冊とも概ね非常によくできた写しである。

訂正の状態もそのまま筆写すると言った態度からは、底本を忠実に写し取ろうとする意識が感じられる。二冊には筆勢などでも共通する面があるようにも思われるが、これらがどのような経緯で作成されたのかは不明である。同一人物による写しなのか(秋錦自身が手控えなどとして作成した可能性もなくはなからう)、単に筆勢も真似て別るときに写されたものなのか、様々な可能性が考えられるが、そうした点の究明は今後の専門家の研究に俟ちたいと思う。

# 第53回貴重書等指定委員会報告

## 新たな貴重書の紹介



巻頭



表紙

『東國輿地勝覽』は、朝鮮の官撰地誌書です。書名の「東国」は朝鮮を意味しています。郡県ごとに建置沿革、山川、風俗、人物などの項目を立てて、朝鮮全土の地理を詳述する形式は中国の地誌書に倣ったものですが、全体に詩文を多く引用する点などには本書の独自性が窺えます。

『東國輿地勝覽』は、成宗12(1481)年に50巻本が編纂されて以降、何度か増補改訂を繰り返しており、現在普及しているのは、光海君3(1611)年から4年にかけて印刷された『新增東國輿地勝覽』55巻です。本書は燕

山君5(1499)年に成立し、同8年頃までに印刷された55巻本の一部と考えられます。印刷に用いられているのは癸丑字(成宗24(1493) 癸丑)年に鑄造)と呼ばれる銅活字で、大振りの美しい書体で知られています。この版は燕山君の末年にいたって民間で私蔵することが禁止されたといわれ、そのためかほとんど現存していません。

本書は巻24のみの端本ですが、他に所蔵が知られておらず、朝鮮地誌および朝鮮本の研究において貴重な資料といえるでしょう。

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に重要な資料を「貴重書」「準貴重書」に指定しています。<sup>1)</sup>平成30年2月21日、和漢書6点、洋書1点の計7点を貴重書に、和書1点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1302点、準貴重書は797点となりました。(貴重書等指定委員会)

### 東國輿地勝覽 卷24



<請求記号 WA36-12>

(朝鮮)盧思愼 等奉勅撰 (朝鮮)金宗直 等修 (朝鮮)成俔 等再修 [燕山君8(1502)頃]

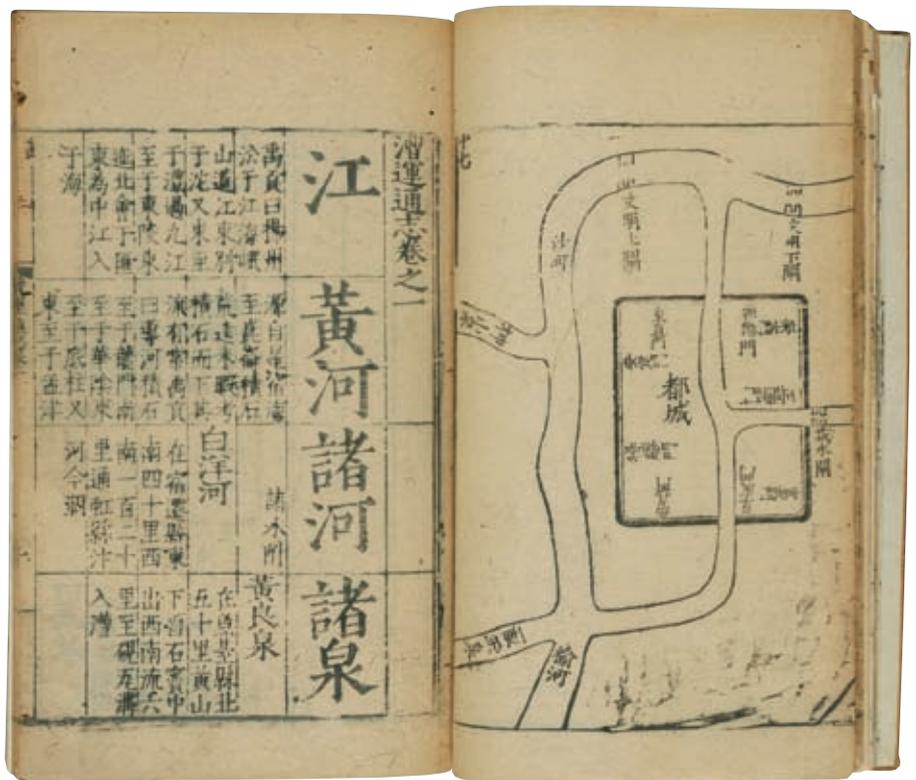
1冊 大きさ36.5×21.8cm

銅活字(癸丑字)印本 版心書名: 東覽 四周双边 有界 每半葉8行每行16字 注小字双行 版心「東覽二十四(丁付)」 双魚尾 黒口 青色無地 表紙 五針眼訂法 燕山君5年成立 同8年内賜刊本と同版 印記: 明治九年文部省交付, 東京書籍館明治五年文部省創立 TOKIO LIBRARY. FOUNDED BY MOMBUSHO 1872

1 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っている。



卷8巻末



卷1巻頭



内表紙

## 漕運通志 卷1-9

<請求記号 WA35-100>

(明)楊宏, 謝純撰 嘉靖7[1528]序

3冊 大きさ27.5×17.5cm

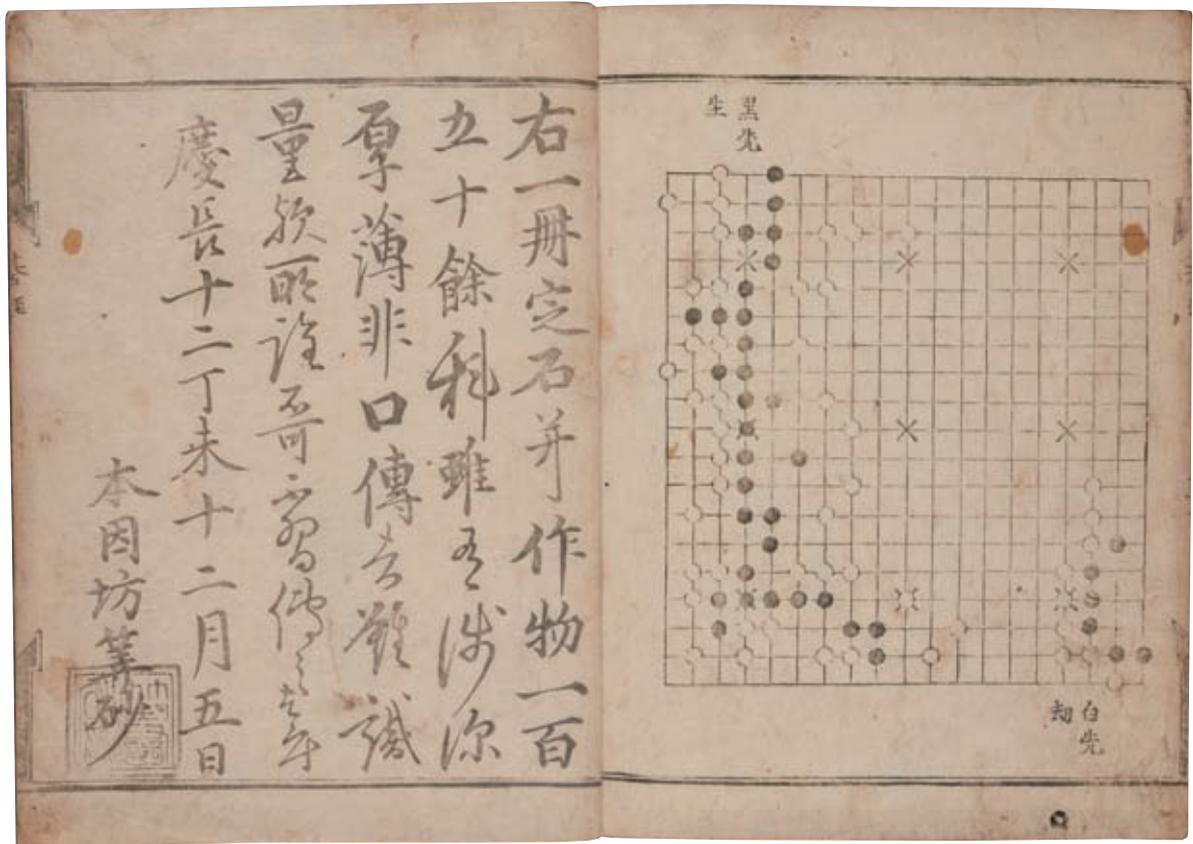
序題: 漕運志 嘉靖4年謝純序, 嘉靖7年廖紀序, 嘉靖9年唐龍序(補配)あり  
五針眼訂法 左右双边 郭内21.0×14.3cm 有界 每半葉8行22字  
注文小字双行 上黒魚尾 白口 卷9第2丁以降欠, 卷10欠, その他欠丁多数, 補鈔, 補配あり 印記: 明治九年文部省交付, 東京書籍館明治五年文部省創立 TOKIO LIBRARY.FOUNDED BY MOMBUSHO 1872



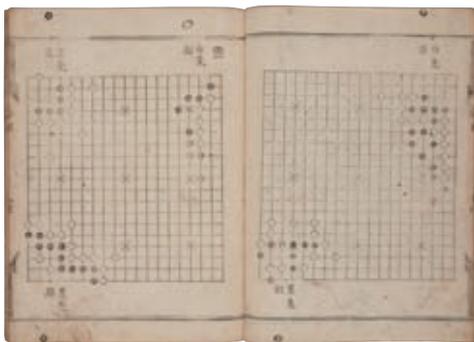
『漕運通志』は、中国における漕運の歴史を述べた書物です。漕運とは、自然河川や運河を使って、租税収入の穀物などを地方から都へ輸送することを指します。陸運は船に比べて費用がかさみ、海運は海難や海賊の危険があるため、漕運は中国の歴代王朝にとって重要な制度でした。

著者の楊宏は、明・嘉靖年間(1522・1566)の初め、漕運の責任者の職にありました。序文によれば、職務のかたわら草稿を作成し、さらに謝純という人物に確定稿を作らせたと言います。その内容は、漕運制度全体を系統立て、また漢代から明代まで包括的に記述したもので、他の書物に見られない貴重な情報も収録されているとの評価があります。

現存する『漕運通志』は、本書のほか、中国国家図書館の所蔵本が知られるのみです。両者には異なる箇所が複数あり、内容から見て、本書の方が早い時期に印刷されたと考えられます。本書には欠巻・欠丁が多いものの、今後本文の詳細な調査が進めば、『漕運通志』の改訂過程を解明する手がかりになることも期待されます。



刊語



14丁裏-15丁表

## 碁經

<請求記号 WA7-289>

本因坊算砂【著】 慶長12 [1607]

1冊 大きさ26.5×19.8cm

書名は版心書名による 題簽書名: 本因坊定石作物(角書: 算砂) 刊語「右一冊定石并了作物一百/五十餘科雖有淺深/厚薄非口傳者難識/量歟所詮不可不習傳之者乎/慶長十二丁未十二月五日/本因坊算砂(方形黒印)」 四周双辺 版心「碁經(丁付)」 双魚尾 大黒口 栗皮表紙 帙・箱入り 印記: 月明荘【ほか】

貴重書

『碁經』は、慶長年間(1596・1615)に刊行されたとみられる、日本で最初の囲碁書の版本です。本書は慶長12(1607)年の刊語を持ちますが、刊語を持たない別版も知られており、また同時代の日記等から本書刊行以前に写本が存在したと思われるものです。

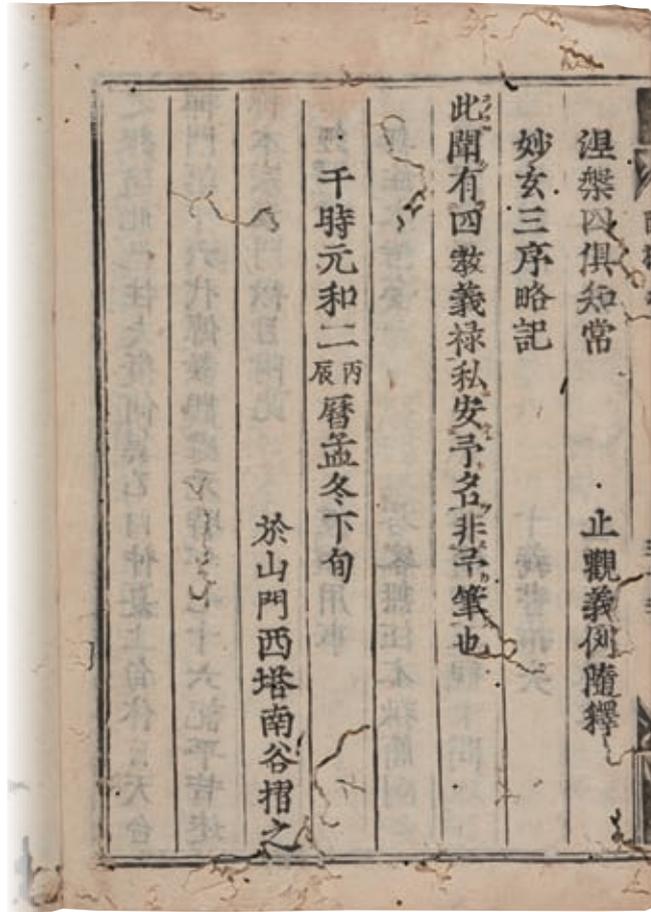
著者の本因坊算砂(1558・1623)は安土桃山・江戸初期の僧・囲碁棋士です。日海と称し、京都寂光寺の塔頭本因坊に住みましました。のちに本因坊算砂を名乗り、江戸幕府から俸禄を受け、囲碁の家元本因坊家の初世となりました。

内容は詰碁(囲碁で一部分の死活を問う問題)が中心となっておりますが、手筋(ある局面で必要にして有効な着手。また、ある形で好手と好手が連なるさし手)も掲載されています。算砂自身の考案によるものが中心とされますが、中国の囲碁書『玄玄碁経集』をもととしたと思われるものも含まれています。

本書は、日本における囲碁書出版の嚆矢として出版文化史上、重要な意義を有する資料といえます。

『止観義例随釋』『毛詩』の欠損活字例

『止観義例随釋』 元和2(1616)年刊	『毛詩』【WA7-254】 【慶長年間(1596~ 1615)年]刊
 卷3 32丁表 2行目	 卷20 15丁裏 5行目
 卷3 19丁裏 3行目	 卷16 8丁裏 2行目
 卷1 29丁裏 7行目	 卷19 16丁裏 6行目



巻6巻末

『止観義例随釋』は、中国天台宗の開祖智顛の『摩訶止観』を研究した『止観義例』（唐の湛然の著作）を、宋の處元（1030・1119）がさらに注釈したものです。

本書は江戸時代初期の元和2（1616）年に比叡山で刊行された古活字版です。比叡山は東塔、西塔、横川の三つの地域に分かれますが、本書が刊行されたのは西塔の南谷で、西塔の刊記のある古活字版としては最初期のものです。

比叡山東塔の月藏坊においては、慶長9（1604）年から12年にかけて『毛詩』の活字版の出版が行われたことが舟橋秀賢（1575・1614）の日記『慶長日件録』に記されていますが、本書にはそれと同一の活字と見られるものが含まれており注目されます。東塔で『毛詩』の出版に使用された活字が西塔に引き継がれて本書に使われることとなったのでしょうか。比叡山における古活字版出版の経緯を知る上で、興味深い資料です。

今回貴重書に指定された資料に

止観義例随釋 6巻

<請求記号 WA7-290>

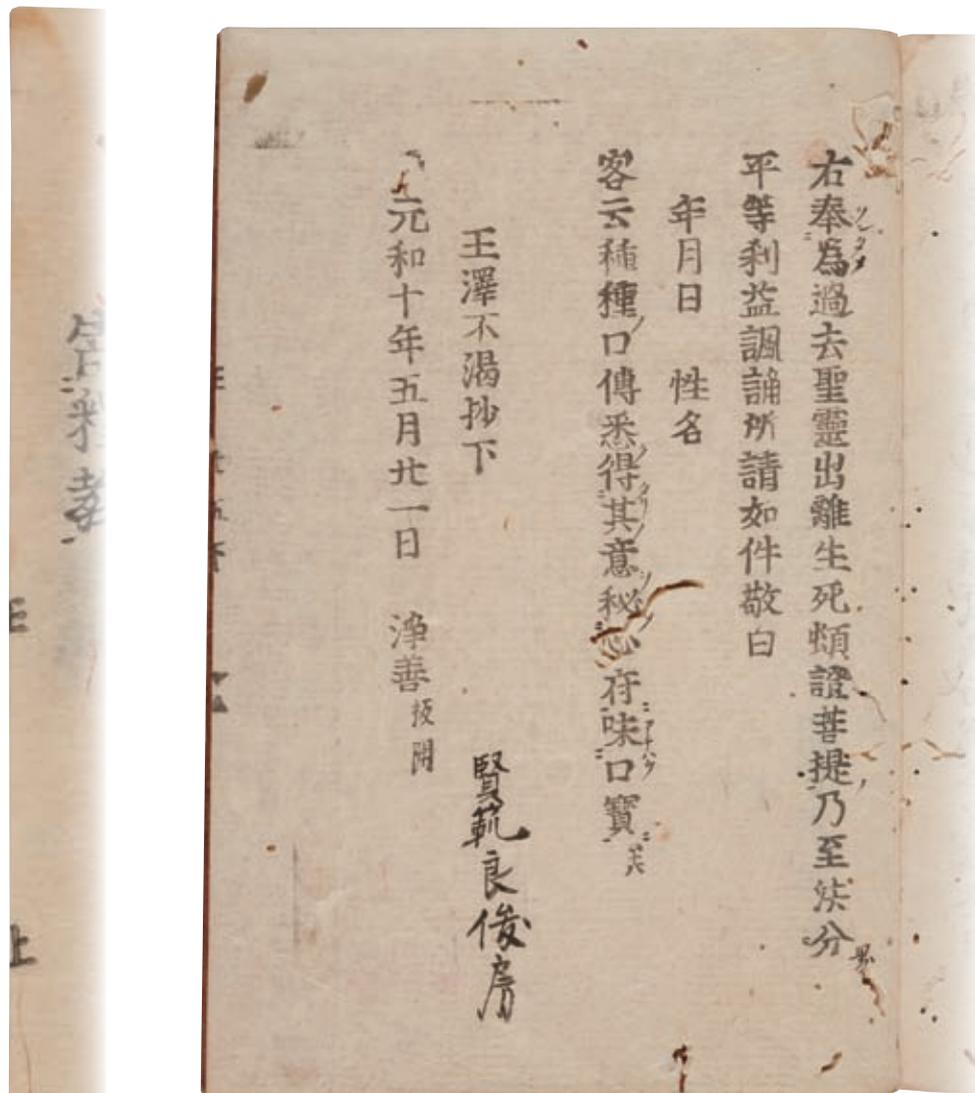
(宋) 處元 述 元和2 [1616]

3冊 大きさ28.3×19.5cm

古活字版 叡山版 版心書名: 随釋 小口書: 義例随釈 刊記あり「于時元和二[丙/辰]曆仲秋上旬/於山門西塔南谷摺刊之」(巻1巻末),「于時元和二[丙/辰]曆孟冬下旬/於山門西塔南谷摺之」(巻6巻末) 四周双辺 有界 每半葉8行毎行20字 注小字双行 上下花魚尾 大黒口 版心「随釋一(-六)(丁付)」巻4第12丁欠 墨書, 朱書による訓点等の書入れあり 印記: 山門長壽院, 山門大林院藏本



は「山門長壽院」(横川飯室谷の長寿院)、「山門大林院藏本」(横川戒心谷の大林院)の印記があり、横川の僧坊で用いられていたことがわかります。



<WA7-291> (左)版心 (上)下巻刊記

『王澤不渴鈔』は、鎌倉時代後期に成立した、漢詩・漢文を作るための作法書です。同様の手引書としては、平安時代中期に成立し、室町時代末期にかけて増補改訂された『作文大体』などがありますが、本書は読者の理解を容易にするため、主人と客が交わす問答の形式で書かれているのが特徴です。真言宗の僧、良季(1251・?)の撰とされていますが、撰者を他の人物とする説もあるようです。写本や版本で流通し、後の類書にも影響を与えました。

今回貴重書に指定された『王澤不渴鈔』2種は、ともに元和10(1624)年に浄善によって刊行された古活字版です。浄善は江戸時代初期に高野山で活字出版を行っていた人物です。

請求記号(WA7・291)と(WA7・292)は、同じ内容の刊記を持ち、本文の字配りも一致しているものの、刊記の表記、版心の形式、本文の活字の組み合わせなどが異なる別版です。古活字版において、刊行者名と刊行年月日がともに一致する別版があることは珍しく、書誌

## 王澤不渴鈔 2巻

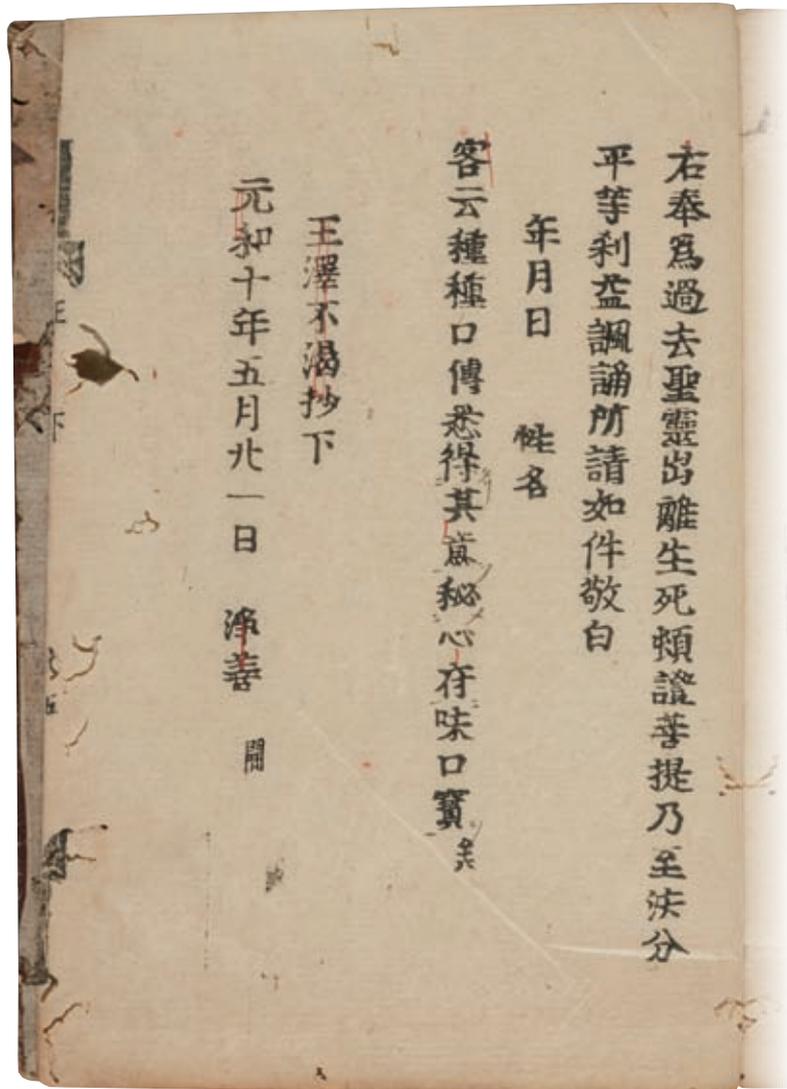
<請求記号 WA7-291>

[良季][編] 浄善 元和10[1624]

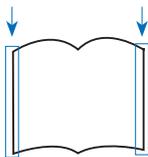
2冊 大きさ27.2×18.9cm

古活字版 高野版 巻末書名:王澤不渴抄(上巻),王澤不渴抄(下巻) 版心書名:王 小口書:王澤鈔 無辺無界 每半葉9行 毎行19字 注小字双行 頭注小字双行 版心:3種あり、いずれも魚尾の形は三角形2つ(黒色、頂点で上下に対向) 粟皮表紙 虫損、綴じ糸切れあり 上巻見返しに七言律詩(題「賦雪」)、本文に訓点、頭注、傍注の書き入れあり 上下巻表紙に「主深勢」(白字書き入れ)(「賢範良俊房」(墨書)に上書き)、上下巻末に「賢範良俊房」(墨書)、下巻裏表紙見返し及び背に「深勢房増椿」(墨書)と書き入れあり





版心とは…  
袋綴の書物の前小口。紙を二つ折した折り目にあたる。



<WA7-292>(上)下巻刊記 (右)版心

当館所蔵本と  
成篁堂文庫本・斯道文庫本の対応関係

WA7-291と同版	斯道文庫所蔵本(下巻) 第1丁
WA7-292と同版	成篁堂文庫所蔵本 斯道文庫所蔵本(下巻) 第2丁以下

学的に興味深い事例です。  
なお、従来、浄善による古活字版『王澤不渴鈔』の完本は、石川武美記念図書館成篁堂文庫所蔵の上下2巻本のみ知られていました。〈WA7・292〉は、この成篁堂文庫所蔵本の同版の完本です。  
一方、〈WA7・291〉と同版の完本は、現時点では他に確認されていません。慶應義塾大学附属研究所斯道文庫には、成篁堂文庫所蔵本および〈WA7・292〉と同版の『王澤不渴鈔』の下巻のみが所蔵されていますが、そのうち冒頭の1丁は、版

心の形式の相違から、ほかの丁とは異なる版であることがわかります。そして〈WA7・291〉の下巻第1丁がこれと一致することから、〈WA7・291〉は、斯道文庫に1丁分のみ残る別版の完本であると推定されます。  
ここに掲げた2種類の『王澤不渴鈔』は、伝本が少ないことに加え、いまだ不明な点が多い古活字版の出版事情に関する研究にも資するところの大きい、貴重な資料であるといえます。

## 王澤不渴鈔 2巻

<請求記号 WA7-292>

[良季][編] 浄善 元和10[1624]

2冊(合1冊) 大きさ27.2×19.5cm

古活字版 高野版 巻末書名: 王澤不渴抄 版心書名: 王, 小口書: 王口 無辺無界 每半葉9行 毎行19字 注小字双行 頭注小字双行 版心: 双鱼尾(花魚尾), 上下黒口 栗皮表紙 虫損, 綴じ糸切れ, 水濡れ跡あり 訓点, 頭注, 傍注の書き入れあり







標題紙

## 貴重書

### ピエトロ・アンドレア・マッティオリ 『ディオスコリデス注釈』（1579）

<請求記号 WA44-16>

Mattioli, Pietro Andrea, 1501-1577. Commentaires de M. Pierre André Matthioli medecin senois, sur les six livres de Ped. Dioscor. Anazarbeen de la matiere medecinale : avec certaines tables medecinales, tant des qualitez & vertus des simples medicamens, que des remedes pour toutes maladies, qui peuent auenir au corps humain, comme auſſi des sentences, mots, & matieres traictees esdicts Commentaires / mis en François sur la derniere edition Latine de l'auther, par M. lean des Moulins docteur en medecine. et de nouveau reueuz par iceluy & augmentés, & enrichis de plusieurs pourtraicts plus qu'aux precedentes impressions : ensemble une table Latine & François des noms des herbes contenues esdicts Commentaires. À Lyon : Par Guill. Rouille., 1579. 136 unnumbered pages, 852 pages, 28 unnumbered pages : illustrations, portrait (woodcuts) ; 37.6 cm (folio)

Signatures: a-k<sup>6</sup>, l<sup>8</sup>, A-Z<sup>6</sup>, Aa-Zz<sup>6</sup>, AA-ZZ<sup>6</sup>, AAA-CCC<sup>6</sup>, DDD<sup>8</sup>. Woodcut title page. Woodcut portrait of Pietro Andrea Mattioli on title page verso. Head-pieces, initials, tail-pieces. "De la manière de distiller les eaux de toutes plantes"--Pages 849-852. Library's copy imperfect: leaves from e1 to g6 are lacking. Library's copy imperfect: worm holes. Includes indexes.

- 2 原文はギリシャ語。ラテン語書名De materia medicaにより、『マテリア・メディカ』と通称される。
- 3 初版は1572年刊。



アイリスの図(B3r)

『ディオスコリデス注釈』は、紀元1世紀の古代ローマ帝国の軍医ディオスコリデスが書いた『薬物誌』の注釈書です。16世紀イタリアの医師で植物学者のピエトロ・アンドレア・マッティオリが著しました。『薬物誌』は様々な植物、動物、鉱物の薬効を検証した書物で、ヨーロッパでは近世に至るまで医学・薬学の基本文献とされました。多くの学者の研究対

象となり、多数の翻訳や注釈書が出版される中で、最も有名となり、広く読まれたのがマッティオリの『ディオスコリデス注釈』でした。初版のイタリア語版（ヴェネツィア、1544）は本文のみでしたが、1554年のラテン語版以降の諸版には木版の挿図（おもに植物図）が豊富に添えられるようになり、大変好評を博しました。これらの美しい植物図が『ディオス

コリデス注釈』の特色のひとつとなっています。指定資料はリヨンの大手書籍商ギヨーム・ルイエ（1518?-1589）が1579年に出版したフランス語版の第2版です。標題紙を含む前付部分を中心に過去の虫損被害が目立ちますが、多数の植物図はほぼ無事に残っています。

「あれ、付箋をめくった状態の画像がないぞ」  
「綴じの部分に一行隠れていないかな」

これは〈検収〉と呼ばれる作業をしている事務室での一コマです。

今号の月報では、古典籍資料を取り上げた記事が掲載されています。そこで登場する古典籍のうちいくつかは、「国立国会図書館デジタルコレクション」にて画像をご覧いただくことができます。資料を撮影し、その画像をデジタルコレクションに搭載するまでの一連の作業を〈デジタル化〉と呼んでいます。資料の利用と保存の両立を図ることを目的としたデジタル化ですが、今回はその舞台裏をご紹介します。

撮影と画像搭載に必要なメタデータ（画像に関する諸情報を記載したデータ）の作製は、基本的に外部に委託して進めています。そのため作業の進め方、成果物に求める品質の確保等、委託する事柄を細部にわたって仕様書で指示する必要があります。特に古典籍はその取扱いに注意を要するものが多く、今回の作業対象資料の留意点（紙の劣化が激しい、付箋（原資料に貼付され、註記等がなされた小紙片）が剥がれる恐れがある等）が受託業者に正確に伝わるよう気を遣います。

作業開始後も様々な問題が出てきます。特に古典籍では、付箋や挟み込み物がたくさんある資料をどんな順番で撮影するのか、一画像に収まらない大きな絵図の分割撮影の方法等々、実際に撮影を始めてみると、事前に検討した想定ではうまくいかないことも少なくありません。場合によっては作業が止まってしまうため、受託業者と密に連絡をとりつつ、指示を出していきます。

撮影された画像は作業の成果物としてディスクに収められて納品され、外部委託による作業は先ず終了します。が、「古典籍のデジタル化」は、実はここからが正念場です。冒頭でご紹介した検収作業が始まるのです。納品された画像が仕様書に示した品質を満たしているか、一枚ずつ確認します。綴じがきつい資料のノドの部分等は、画像と資料本体とを突き合わせて確認せねばならず、気の抜けない作業です。

現在、デジタルコレクションでインターネット公開されている古典籍資料は、およそ七万点。インターネットを通じてさらに多くの資料を皆さんにご利用いただけるよう、今日もモニターとのにらめっこが続きます。

（人文課古典籍係 ドラ親父）

## モニター越しにみる古典籍 ～デジタル化あれこれ～





## 本の森を歩く 第17回

# 戯作者が見た江戸後期の相撲

立川焉馬の著した相撲関係資料

川本 勉

江戸時代後期、相撲の世界に魅入られ、相撲故実家元の吉田追風(二〇世)に従い、式守鬼一郎の名で行司を勤め、数種の相撲資料を書き残した戯作者がいた。その名は二世立川(烏亭)焉馬(一七九二〜一八六二)。本名は山崎晋(賞次郎)(通称助右衛門)。石川雅望(狂名)宿屋飯盛(号は六樹園)の社中であつて、狂名を松寿楼(庵)永年といい、猿猴坊月成と号して、春本を始めとする多くの著作を残し、みずから二世蓬萊山人帰橋、二世近松門左衛門を名乗つた。南町奉行所与力の職にありながら、遊蕩のため家督を弟に譲り、深川に隠棲し、気楽な人生を過ごした趣味人であつた。

寛政期(十八世紀後半)以降、寺社の修理、再建のために室町時代から行われた勧進相撲に代わつて、將軍の命による上覧相撲や、両国回向院などで開催された勧進とは名ばかりの営利目的の興行相撲が相撲人気を一層高めた。さらに、焉馬が相撲に夢中になつていた文化・文政期以降の江戸は庶民文化の爛熟期にあたり、歌舞伎や、落語、講談などでも相撲を題材とした演目が人々を魅了した。

『力競表裏 相撲取組圖繪』(資料四)が刊行された天保一四年には、將軍家慶の命による上覧相撲が、江戸城内の吹上苑で催され、多くの注目を集めた。幕臣、川路聖謨の『遊芸園隨筆』には、この時、横綱の不知火と、名人とうたわれた大関の剣山が対戦し、勝つた不知火に弓が授けられ、その弓で不知火は土俵上で鮮やかに弓取の式を行つた旨などが記されている。不知火の後、小柄ながら堅実な相撲で知られた秀ノ山が横綱にあがるなど、名実ともにこの時期は現代の大相撲につながる、興行としての相撲の揺籃期にあつた。

こうした時期に焉馬が書き残した相撲資料は、人気を博した相撲絵と同様に、娯楽としての相撲の繁栄ぶりが生き生きと感じ取れる。また、土俵入り、化粧まわしなど現在にも継承されている相撲のありようが具体的に示されていて、とても有益である。

ここでは当時の相撲人気的一端を、二世焉馬の著した当館所蔵の相撲資料から探つてみたい。

# 一、角觥かくてい詳説 活金剛かつ傳

図① 「相撲稽古圖」年寄(親方)らが見守る中、稽古に励む力士たち。[鍛山]喜平次、[桑川]新右エ門、[友綱]良助など勸進元、差添、世話役を勤めていた年寄たちの名前も確認できる。



『角觥詳説 活金剛傳』 松壽樓永年 撰 歌川國直、歌川國丸 画 永壽堂西村屋與八 文政 11(1828) <請求記号 214-181>

当時の相撲人気にあやかっ  
て、庶民向けに、由緒正しき相撲の故実をわかりやすく解説し、当時の支度部屋や稽古の様子なども網羅したものの。広く一般に普及した相撲資料として注目すべきものである。

中国、朝鮮、インド、日本における相撲の始まり、相撲すまゐ節会のせちえ、勸進相撲の始まり、御前相撲土俵の故実、四十八手の古法、横綱の免許状、弓取りの始まりといった歴史から、特に大きな力士や技量が優れ注目された力士、行司の姓名など最新の情報までが記されている。また、『忠義水滸傳』や『三才圖會』に見られる相撲や、宮中庭上における相撲節会、

御前相撲の土俵及び土俵入り、勸進相撲の木戸前や土俵入り、支度部屋や会所、稽古の様子(図①)を伝える貴重な図版も掲載。

巻頭の石川雅望の序には、「昔の相撲は品格のある厳かな朝廷の儀式で、相撲すまゐ人も部領べりやう使つかいにより全国から厳選された三十人ほどであったが、今の世の勸進相撲ではその数は四、五百人余りとなり、人気を極めている、松壽楼(焉馬)の兄さんはいそいそ相撲好きで、日々相撲とかかわつていて、このたびとても興味深い珍しい相撲の本を作った、その苦勞は賞賛に値する」といった旨が記されている。

# 二、相撲金剛傳 二編

『活金剛傳』の続編。現代の写真入り相撲名鑑にあたる資料で、江戸後期に活躍していた力士たちの姿がよくわかる、楽しく興味深い資料である。

「弓取土俵入之圖」の後、八八人の力士の名鑑（所属部屋、出身地、しこ名の変遷、召し抱えていた藩主などを記す（図②③））や江戸相撲年寄（三一人）、行司（一〇人）の一覧、主な行司の軍配団扇の図を掲載。なお、名鑑部分は立行司木村庄之助らの校合を経ており、焉馬が相

撲界に深くかわっていたことがよくわかる。

巻頭に前編同様、石川雅望の序がある。その序には、前編よりも細に、力士の肖像や化粧まわしの紋印も紹介するなど、焉馬の力の入れようが普通ではないこと、宮中における相撲節会は、音楽を奏でる中で行われた立派で美しい公事だったこと、昔は相撲人を左右に分け各組組を一さしといったが、今は東西に分け一番といっていることなどが記されている。

『相撲金剛傳 二編』 蓬萊山人 撰 歌川國安 画  
木村庄之助、式守伊之助 校合 木村庄太郎、式守与太夫、木村多司馬 再校 永壽堂西村屋與八 文政 11(1828) <請求記号 132-201>



図② 化粧まわしを付けた「大空武左衛門」  
(身の丈が七尺二寸五分あった大男)。

図③ 「四ツ峯東吉」「稻妻雷五郎」「高砂浦右衛門」「鳴滝又右衛門」が描かれている。



# 三、四十八手最手鏡 せきとりかがみ



『四十八手最手鏡』 蓬萊山人 撰 歌川國安 畫  
西村屋興八 文政 11(1828) <請求記号 209-22>

図④ 四十八手の内「かものいれくび」などの「四手を解説する。「すくひなげ」には「のこればまきおとしこしひねりの手になる」と記されている。



決まり手の原型を探ることのできる重要な資料の一つである。

まわしの締め方、支度部屋、しこふみ、立ち合い、取組、土俵入りの様子を図版で示した後、相撲の決まり手である四十八手（かものいれくび、むかふづき、すくひなげ、さか手なげなど図④）を描き、それに解説を付したものの。巻頭の序には「相撲の手免す處、おもてかた表方四十八手あり、かしら頭を以て為すを反、手を以て為すを捻、ひねり腰を以て為すを投、なげ足を以て為すを掛、かか四手に分れ十二手つ、四十八手となる」とある。四十八手などの描き方が、初版では一頁、二図であるが、再刻では一頁、一図に変更され、序文も削られている。

「相撲四十八手」という表現は、『庭訓往来』や『節用集』などにも見え、元は決まり手が複雑多岐に渡るといふ意味であったが、元禄期に『相撲之圖式』<sup>④</sup>が刊行され、四十八手に具体的な技があてはめられると一般に普及していった。ちなみに現在の大相撲の決まり手は、八十二手と非技（勇み足など）五種とされている。

# 四、力競表裏 相撲取組圖繪

『力競表裏 相撲取組圖繪』 立川焉馬 撰 歌川國貞 畫 木村庄之助  
校合 頂恩堂本屋又助 天保 14(1843) <請求記号 209-23>



図⑤ 「一味清風」と書かれた軍配団扇は、元龜年中(1570-73)に関白二条晴良から、相撲を司る吉田家の追風(13世)に授けられたのが始まりとされる。

図⑥ 上段余白の「三役弓取始」には、元龜元年(1570)、織田信長公が、江州常楽寺で相撲を御覧になった際、勝った宮居眼左衛門に秘蔵の重藤(籐)の御弓を授けた旨の記載がある。



図⑦ 反十二手の内「かものいれくび」「けかへし」「しゅもくぞり」「きぬかつぎ」「もち出し」「むかふつき」の六手を解説する。

『四十八手最手鏡』の続編で、四十八手の解説などを改訂したもの(表紙図⑤)。巻頭には「前作は誤りが少なからずあったので、この道に詳しい木村松翁(立行司、八世木村庄之助)と図つて、取組の様を歌川国貞に示し巧みに写させ、相撲好きの子供たちも玩べる本にした」とある。続く「自序」からは、みづから「相撲古実者」と称し、相撲の決まり手の歴史や基本を、よりわかりやすく伝えようとした様子が窺える。

四十八手の解説の前には、古い時代の大坂での勸進相撲、明和の頃の大坂の関取猪名川と千田川、横綱の谷風棍之助、小野川喜三郎、阿武松緑之助、稻妻雷五郎、さらに不知火諾右衛門といった現代でも知られる有力力士の土俵入りと立行司の木村庄之助、剣山、岩見瀉(後の横綱、秀ノ山)の取組と行司役の式守鬼一郎(図⑥)が描かれている。四十八手の描き方は、前作の一頁あたり、二図(右ページ図④)から三図に変更され、体の線がより緻密に描かれ躍動感も増している(図⑦)。

# 五、関取名勝圖繪



図⑧ 相撲絵  
 (左)「柏戸宗五郎」弘化4(1847)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1313410>  
 (右)「江戸 荒馬大五郎」安政6(1859)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1303931>  
 歌川豊国画『相撲錦絵』の内

『関取名勝圖繪』 談洲樓立川焉馬 撰 國貞 改一陽齋豊國 畫 頂恩堂本屋又助 嘉永2(1849) <請求記号 209-24>



図⑨ 横綱の秀ノ山(旧しこ名は立神、岩見瀧)と、そのしこ名にちなむ名勝が描かれている。

三九人の関取と、そのしこ名にちなむ名勝などを紹介した図絵。人気力士を描いて飛ぶように売れた相撲絵(図⑧)は、現代のプロマイドに近いものであったが、関取と景勝地を抱き合わせたこの趣向は、現代の芸能界のスター達の景勝地とつた写真集に通じるものといえる。

巻頭の「魚市の町に住む野田舎」を名乗る人物の序には、阿武松とその連れの力士たち、焉馬、豊国(国貞改)、本屋又助(頂恩堂)による酒宴の際、又助が先の金剛伝の評判の良さに便乗して、『関取名勝圖繪』と題した本を出したいという、「よくも思い立たまう物かな」と皆が賛同した旨が記されている。収録されている関取は、その並外れた大きさから一世を風靡した生月鯨太左衛門を始め、剣山、秀ノ山(図⑨)、不知火など当時の相撲界を代表する実力者たちである。巻末に、相撲用語を名勝、名物に見立てた解説を付す。

# 六、相撲推故傳

すまいすいこでん



図⑩ 初編表紙(上)には大熊を打ち殺した小熊伊成、二編表紙(右)には天狗と力比べをした真髪成村といった、いずれも類稀な怪力無双の最手たちが描かれている。

『相撲推故傳』 立川焉馬 著 歌川國安、歌川國直 画 岩戸屋喜三郎；永壽堂西村屋與八 文政13-天保3(1830-1832)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10304016>

(注1) 二世立川焉馬の相撲関係の著作で、当館未所蔵のものに、相撲の起源、故実や相撲節会時代の最手たちの逸話などを記した『相撲節會銘々傳』(歌川豊国画 天保16年序)があり、東北大学附属図書館狩野文庫がその初編(上下、2冊)を所蔵している。

(注2) 天皇が宮中で、諸国から召し集められた相撲人の相撲を諸臣と観覧した儀式。

(注3) 相撲節会に相撲人を召し出すために、諸国に派遣された使者。相撲使(すまいのつかい)。

(注4) 相撲之圖式 6帖 新編稀書複製会叢書 第42巻 臨川書店 1991

<請求記号 KH5-E2>

(注5) 朝廷に召し出された最高位の相撲人。

### 参考文献

- ・『日本相撲史 上巻(神代から江戸時代)』 酒井忠正 著 大日本相撲協会 1956 <請求記号 788.1-Sa394n>
- ・『江戸時代大相撲』 古河三樹 著 雄山閣出版 1968 <請求記号 KD971-2>
- ・『相撲の歴史』 新田一郎(著) 講談社 2010 <請求記号 KD971-J51>
- ・『史料集成 江戸時代相撲名鑑』 2冊(上、下) 飯田昭一 編 日外アソシエーツ 2001 <請求記号 KD9-G42>

伝説上の勇猛果敢な最手たちの逸話を題材にして、合巻に仕立てたもの。『今昔物語』や『古今著聞集』『源平盛衰記』収録の話などが江戸時代風に脚色されていて、想像の世界が展開し、娯楽的な要素が随所に盛り込まれている。

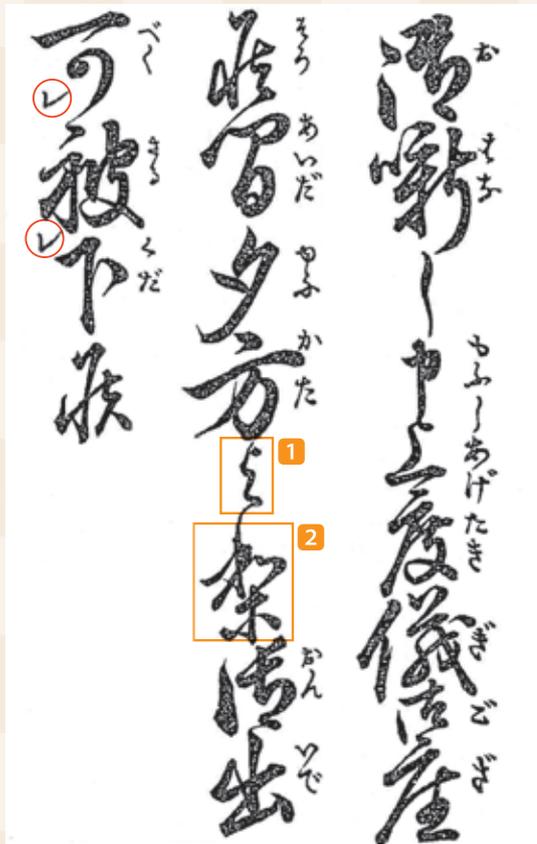
天皇家の後継争いに絡む、貴族紀名虎と伴善雄(男)の有名な相撲対決に始まり、仁王宗平、鬼藏大夫永季、小熊伊成(図⑩)といった類稀な怪力無双の最手たちが登場する、猛獸や化物退治の英雄談が続く。越後国の相撲男、佐伯氏長に力を与え、相撲節会で勝たさしめ名をあげさせた、近江国高嶋の大炊子という、尋常でな

い女の力持ちの逸話なども興味をそえられる。本書は相撲を深く愛した焉馬の、戯作者としての本領が窺える楽しいエンターテインメント作品である。

\*\*\*

相撲に魅入られ、行司や力士と親交のあった立川焉馬といういち戯作者による相撲関係の著作は、相撲人気による拍車をかけただけでなく、江戸後期の相撲の実態を今日に伝える貴重な記録資料ともなっていて、庶民に根付いていった相撲文化の奥深さの一端も垣間見える。

一通目



与 梨



うくん。これはどうすればいいんだ？  
どうしたの？

あつ、ちようど良いところに！なんかこんな紙が置いてあつてね、「おはなしもふしあげたきごさそろあいだゆふかた…おんいでべくさるくだ…」って書いてあるんだけど、これってなんなの？お話したいことがある、つて言われても、どうすればいいのかわかんないよ。

どれどれ、まずは読めていない文字を説明しようか。  
1は、「与」の字が崩れてできた「よ」で、2は「梨」の字が崩れてできた「り」だよ。最後の文字は振り仮名が無いけど、途中に出てくる「そろ」と振り仮名が付けられている文字と同じだね。「候」という漢字なんだけど、「そろろ」の音が変化して「そろ」と読まれることもあるんだ。

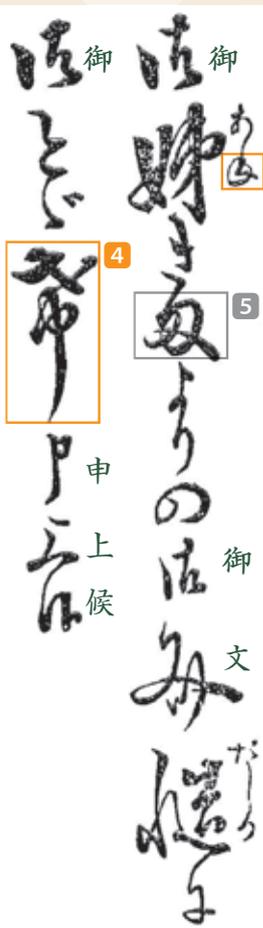
じゃあ後半は「ゆふかたよりおんいでべくさるくだ候」？どういうこと？

「べく」「さる」「くだ」の部分の漢字「可被下」には、間に片仮名のレみたいな記号(○)があるから、これは順番をひっくり返して読まないといけないんだよ。だから「ゆふかたよりおんいでくさるべく候」となるね。夕方から来てください、だって。

ひっくり返して読む、ってなんなの？も、日本語じゃないの!?

あつ、でももうすぐ夕方だから行く準備をしなくっちゃ。忙しいから今回はもうおしまいね。さよなら

二通目



年 3  
希 4

満 5  
ま

5月号で勉強した「ま」  
今回の「ま」

同じ「満」なのに  
違いすぎ!



行ってきまーす!



ちよつとちよつと、どこに行くつもり?

あれ、そういえば場所が書いてないなあ。ほかには何もヒントがないし…ねえ、どうしたらいいと思う?

ふふふ、実はこの紙を置いたのは僕なんだ。今回は手紙の書き方の例文で変体仮名を覚えてもらおうと思って。

え〜! 誰かオイラを好きな子からの呼び出しかと思っただのに!

だましちやつてごめん。普通は手紙に振り仮名なんてないから、おかしいって気付かれちゃうかなと思ったけど、すっかり信じてたね。

なんだよ、それー!

さて、じゃあ他のものも見てみようか。二通目を読んでみて。「御」「文」「申」「上」「候」は漢字だよ。

え〜、読まなきゃダメ? さっきのでやる気なくなっちゃったんだけどなあ。まあしょうがないか。「御あ…さ…よりの御文たしかに御とゞ…申上候」。短いのにけっこうてごわいぞ。

じゃあ説明していくね。3は「年」という字が崩れてできた「ね」。手と変化していったんだ。

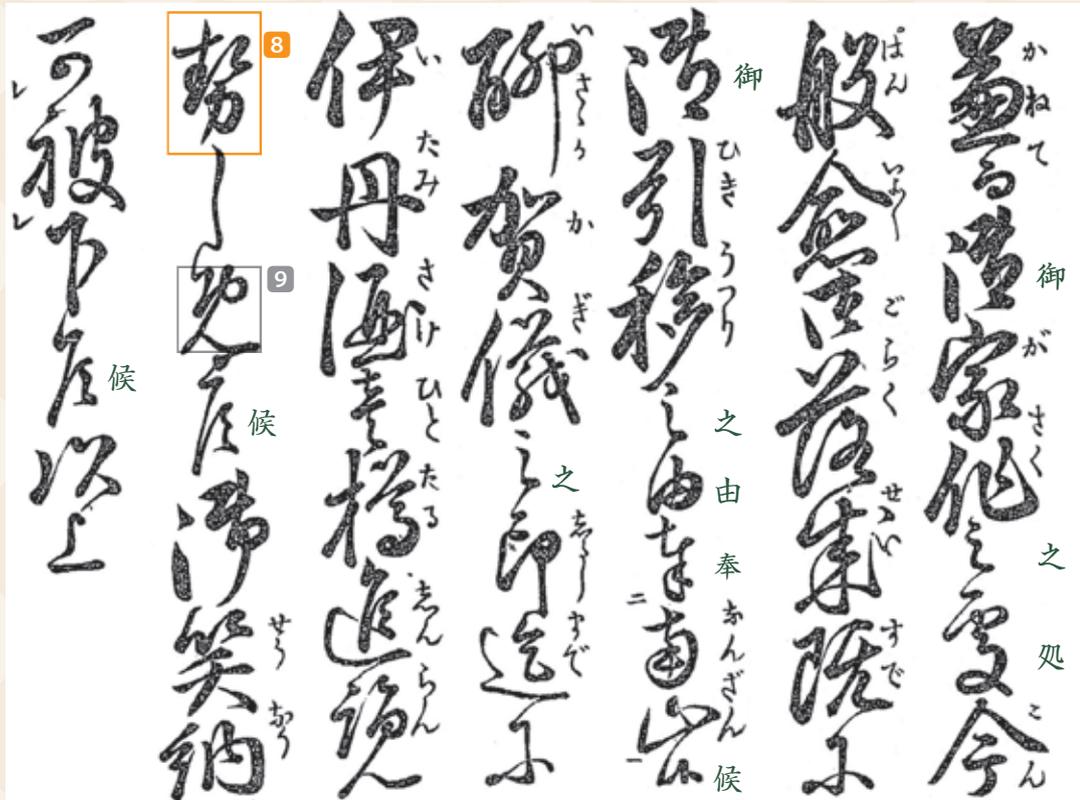
5は「満」からできた「ま」。これは前にも出てきた字だけど、その時よりもっと崩れたパターンだね。

前に出てきた時はサンズイが縦棒になって残っていたけど、もうそれも分からなくなっちゃってるじゃん。

4は「希」という漢字が元になってできた文字で「け」だよ。希とまのような崩れ方だね。全体は「御姉さまよりの御文、慥に御とゞけ申上候」となるね。



四通目



「兼かねて而御家作がさく之処こゝら、今般愈御落成こゝらくせい、既に御引移ひきうつり之由よし奉なんざん南山なんざん候こゝら。聊賀儀いさか之印迄しるしまでに伊丹酒壺いたみさけ樽進覽とらひせしめ候こゝら。御笑納せうなう可べし被レ下候くだり。以上。

免め 9

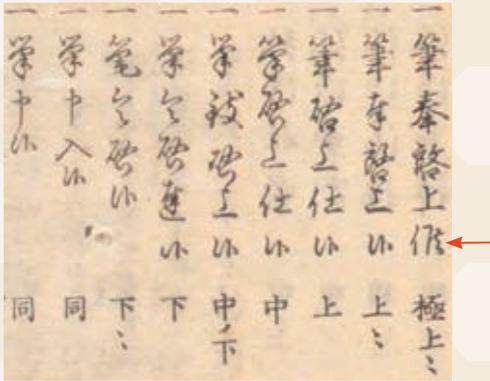
勢せう 8

：英語の勉強もいいけど、メキシコに行くならスペイン語を勉強の方が良かったんじゃないかな。  
 えっ、そうなの!? 英語を勉強しておけば大丈夫だと思つたのに：しよぼーん。  
 まあまあ、英語の勉強も無駄にはならないと思うよ。気を取り直して、最後はちよつと長めの手紙を読んでごらん。  
 あつ、今回はもうこれでおしまいなんだ。じゃあ頑張っちゃうよ。  
 漢字も結構混ざっているけど、今までに出てきたものも多いから大丈夫だね。まだ出てきてなくて読みにくそうなのは、「之」「処」「由」「奉」「くらいかな。「候」もまた違う形になっているから気をつけてね。  
 よし、気合入れて読むぞ! 「かねて御がさく之処、こんばんいよくこらくせいすでに御ひきうつり之由、なんざん奉候。いさかかぎ之しるしまでにいたみさけひとたるしんらん：しめ候。御せうなうくださるべく候。以上。」  
 とても良く読めるじゃないか。「奉」を読む順番もいいし、**8**以外はばつちりだね。  
 へへへ。オイラも気持ちよく読めたよ! でも**8**はなんだろう?  
 これは元々の漢字からそんなに大きく崩れているわけではないね。「勢」という字が元になっていて、「せ」の変体仮名だよ。全体を読むと家の新築祝いのお手紙になっているね。

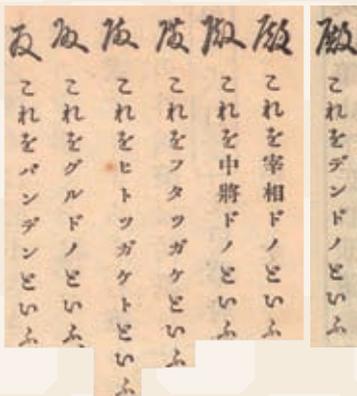
①御のいろいろ



②候のいろいろ



③殿のいろいろ  
ランクによって呼び名もついている



## 文字の崩し方と格式

いわゆる候文で頻繁に用いられる「御」や「候」は、その使用頻度の高さから、非常に簡略化された形で書かれることもあり、実際の文書中に現れる形に多くのバリエーションがあります。これらの文字を手紙に用いる場合には、どの程度の崩れ方で書き表すかをその受け取り手の身分に応じて決めるという規範も存在していたようです。

たとえば、「御」の字は、江戸幕府の右筆を務めた山下金助が例示するところによれば、「上々」「中」「下」の区別がありました(左①)。また、「候」も、多くは「小」で良いものの、特に丁寧に書く場合には違う字体を選択せよ、と指南する本も出されています(左②)。宛名につける「殿」の字も、別の人物の証言によれば、なんと7種類の使い分けがあったそうです(左③)。

手紙の文字からは、その意味内容だけでなく、手紙の書き手と受取り手との力関係も透けて見えてきます。



目上の人へのお手紙は  
キンチョーするな〜

- ①『消息文変遷：一名かりのゆくへ』  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1870336/83>
- ②『改正増補江戸大節用海内蔵・乾』  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1911097/86>
- ③『消息文変遷：一名かりのゆくへ』  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1870336/84>



ふ〜、今日はこれでおしまいか。ところで今回はけっこう漢字も使われていたけど、「御」とか「候」って、同じ字でもいろんな形で出てくるんだね。

そうだね。その二つは頻繁に使う字だし、使われる位置からだいたい推測できるから、ものすごく簡略化されて書かれても、読み手に伝わるんだよ。「候」なんて、ほとんど一つの点みたいに書かれることもあるよ。

「候」が点になっちゃうの！まあそれで伝わるんなら、オイラはあんまり動かないですむからいいけど…

手紙だから、受け取る人にきちんと伝わればそれでいいんだよ。

そっか。ところで今回読んだものはなんだったの？

「英語学校」という言葉も出てきていたし、少し新しい感じがするよね。今回は、手紙の例文を載せた、明治16年と明治20年に出版された二種類の本の例文を読んでもらったよ。

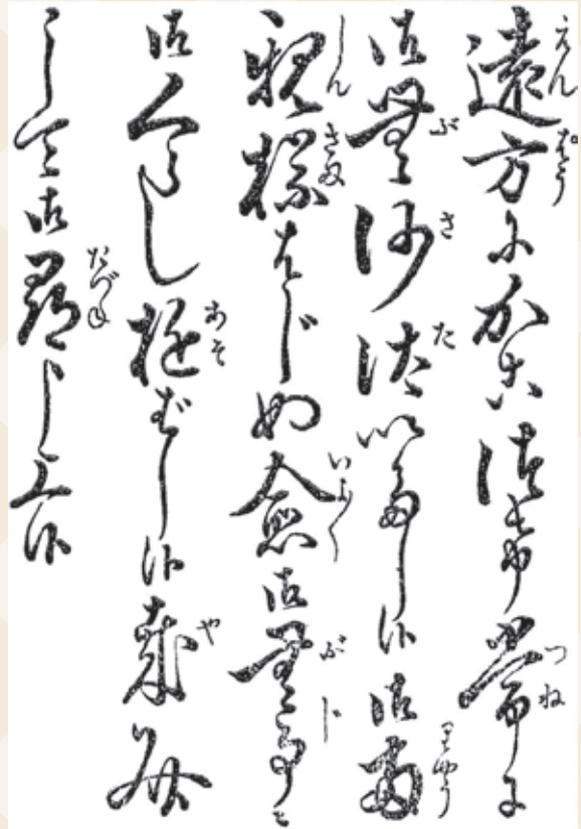
明治の人はこういう本を参考に手紙を書いてたんだね。

今みたいにインターネットもないから、こういった参考書は役に立っただろうね。今回紹介したもの以外にも、いろいろなものが出版されているよ。

オイラもこの本で手紙の書き方練習しようかな。なんか漢字にも慣れてきたし。

そうだね。手紙で使われる言い回しも勉強できるし、

宿題



さびしがりやさんに  
宿題だよ



振り仮名から推測して漢字の崩れ方もなんとなく覚えられるだろうし、古い手紙を読む時に役に立つ知識を身に付けることもできそうだね。

よし、読んでみるぞ〜。

燃えてるね〜。この調子ならもう教えなくても自分で覚えていけるかな。

ってことは、もう卒業!?

うん、次回で卒業ってことにしよう!

やったー! 卒業旅行だ! でも…

あれっ、さびしくなってきた?

そんなことないやい!

(絵・正保五月)

See also...

本誌1月号の「国立国会図書館にない本 明治前期の手紙作法の本」でも、手紙の書き方の本を紹介しています。



<出典>

●明治女用文：四季類語 . 1  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/867343>  
 9コマ目 = 今回紹介した (以下同) 一通目、29コマ目 = 四通目

●小学作文書簡日用文  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/866991>  
 17コマ目 = 二通目、21コマ目 = 三通目、35コマ目 = 宿題

6月号宿題の答え

余が性質旅行を好み、幸に其機会を得て、万延申の年はじめてカリホルニアに航海し、其後文久戊の年は欧羅巴の諸国を巡歴し、今茲は又ワシントンニューヨークへ行き、都合三度外国の旅行せしが、いろく珍しき事を見聞し、其国々人情風俗も分りて心得となることども少からず。依て私に考るに、我日本国も近來は追々外国人と親しくなり、殊に去年の夏は、外国に勝手に行くべしとの官許もあり、同時に太平洋の飛脚船の出来、いよく双方の交り厚かるべき兆にて、この後日本人の外国へ往來するもの必多かるべしと思ひぬれば、其輩の手引のため、飛脚船の模様・乗船の時の心得方など、この度見聞せしだけを書集、また先年欧羅巴へ行きしとき書留置し日記、其外原書の中よりも抜萃しかれこれと取りあつめいぢまつり、是を西洋旅案内と題せり。

# 本屋に ない 本



## 時計屋さんの昭和日記 —青年のみた戦中戦後の横浜—

横浜市発展記念館 編  
横浜市ふるさと歴史財団 刊  
2015.4 95p 26cm  
<請求記号 GK191-L319>

著名人でもなければ、悲劇的な人生を歩んだ人物でもない、いわゆる市井の人の一生を、一次史料を通してまるごと追体験する——そんな貴重な展示会が、戦後70年の初夏に横浜都市発展記念館で開催された。本書はその図録である。

昭和5年、長野県から12歳で横浜郊外の根岸にある時計屋に奉公に出された下平政熙氏は、仕事のメモとして、また故郷への手紙のネタ帳として日記をつけはじめた。日記は亡くなる前日まで、じつに64年間書き続けられた。その記述を追いながら、あわせて当時の市民の生活に関する所蔵品を展示することで、立体的な構成となっている。奉公人としての忙しい生活、休日に楽しんだ活動写真や百貨店、防空演習

や隣組、徴兵検査、横浜大空襲。戦中の暮らしが、下平氏の目を通して臨場感豊かに伝わってくる。召集されるも脚気で即日帰郷を命じられれば「喜んだのは主人のみ、自分は残念なのと申訳ないので一ぱいだ」。再度召集され、

中国大陸で終戦を迎えたが、戦後は「敗戦国日本を建直すため、家を興す為に」と記している。当時の多くの人がそうだったように、そのときそのときの出来事をきわめて素直に受け止めているのが印象的だ。残念ながら出征中の日記は無い。もし書いていたら（残っていたら）どんな記述だっただろうか。長野の家族は昭和15年に満州に渡ったが、引き揚げの苦勞で多くが亡くなった。生き延びた14歳年下の弟を下

平氏は引き取り、奉公先を出て二人で暮らし始める。その際の料理を弟がメモしたものが「炊事日記」。戦後すぐの食糧難の時代の食生活が垣間見える貴重な資料である。

その後、30歳で独立開業、34歳で結婚。結婚前に婚約者とかわした「ラブレター」が、夫と妻の双方残されているのが微笑ましい。「なごやかな春の訪れと共にすく〜と延びる愛の芽を何に例えたらよろしいでせうか」。現代人からすると気恥ずかしいような、しかしうらやましくも感じる一コマである。

また、横浜ならではの記述には、横浜市民として親しみを感じる。自転車得意先を回った関内の官庁街、休日にでかけた伊勢佐木町、復員して降り立った桜

木町駅、食料を求めてのぞいた野毛のヤミ市。奉公先に近い根岸の丘はGHQに接取されたが、今もそのエリアは米軍家族の住宅だ。地域の歴史が、一人の市民の人生の背後に見えてくる。

展示の企画当初は、日記を歴史的資料とのみとらえ、普遍的な部分を抜き出すとと考えていたようだ。しかし、下平氏の人柄や人生にひきつけられ、むしろ普遍化できない個人の人生を描きながら時代をうかがわせる手法に変更したという。その効果は確かにあったと言えよう。

一人一人の人生がかけがえのないものであること、そして時代や社会、地域と分かちがたく結びついていることを、さりげないながらも力強く伝えてくれる一冊である。（古野朋子）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

開館70周年  
記念展示

開館70周年を記念して、幅広い蔵書の中から魅力ある様々な本を紹介する展示会を、今秋に行います。本誌では、会期までの間、主な展示資料を少しずつお見せします。

# 本の玉手箱

— 国立国会図書館 70 年の歴史と蔵書 — から ⑤

何これ？



変わってる！

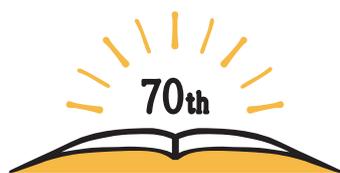
© ユニバーサル ミュージック

## レコードがハート型！？

愛のファンタジー 東芝 [昭和57(1982)年]【YMA-267-19-2】

昭和55(1980)年に公開され世界的にヒットしたフランス映画「ラ・ブーム」の主題歌が収録された、ハート型のカラーレコードです。通常のレコードは、強化や着色を目的としてカーボン(炭素)を配合しているので黒いに対して、カラーレコードは、赤や青などの顔料を配合し製造されています。

国立国会図書館では、録音資料・映像資料も収集しています。変わったデザインのレコードのほか、ソノシートやMD(ミニディスク)など、今では目にする機会が少ないさまざまな媒体を、ぜひご覧ください。



過去を読み、未来を読む。

**東京会場** 国立国会図書館東京本館 新館展示室

10.18(木) — 11.24(土)

**関西会場** 国立国会図書館関西館 大会議室

11.30(金) — 12.22(土)

休館日、展示替え等の最新情報は、ホームページ>国立国会図書館開館70周年記念のページでご確認ください。

# NDL Topics

## 関西館小展示（第24回）「百花繚乱！ガーデニングの世界」

朝顔の花の数を数える夏の朝。暑い日にふと目に留まる、フヨウの花のどこか涼しげな姿。庭の金木犀の香りに秋の始まりを感じ、色づいていく紅葉を見て秋の深まりを感じる。

生活を豊かに彩ってくれるガーデニングは、多くの人身近に親しまれています。その歴史はかなり古く、古代エジプトの遺跡から約4千年前の花壇とみられる遺構が発掘されるなど、ガーデニングは長い時間の中で育まれ、発展してきました。

個人が気軽に楽しめるものでありながら、文化や産業、医療など、社会的な側面も併せ持つガーデニング。第24回の関西館小展示は「百花繚乱！ガーデニングの世界」と題し、多彩な切り口の本や雑誌約100点を紹介します。



伊藤若冲画、田島志一編『若冲名画集』関西写真製版印刷、明37.10  
<請求記号 400-48>



岩崎常正著『本草図譜 48』本草図譜刊行会、大正5-10 <請求記号 309-66>



第23回関西館小展示「犬も歩めば本になる」の様子

○開催期間 8月16日（木）～9月18日（火）

※日曜・祝日を除く

○開催時間 9時30分～18時

○場所 関西館閲覧室（地下1階）

## 国立国会図書館デジタルコレクションがIIF（トリプルアイエフ）に対応しました

国立国会図書館が所蔵する古典籍資料及び図書をデジタル化したものうち、著作権保護期間満了によりインターネット公開しているもの（約34万点）を、画像共有のためのフレームワークとして注目を集めるIIF（International Image Interoperability Framework）に対応した方式でも提供することになりました。

これにより、IIF対応ビューアを用いて、国立国会図書館デジタルコレクションの画像と他機関のデジタルアーカイブの画像を並べて見たり、コメントやタグを付けて共有したりすることができるようになります。デジタル画像の相互運用性が大きく増します。

国立国会図書館デジタルコレクションの検索結果一覧画面  
IIF対応資料にはIIFのアイコンが表示されます（丸囲みの箇所）



# NDL Topics

## 国際子ども図書館展示会

### 「世界のバリアフリー児童図書展―IBBY 選定バリアフリー児童図書2017」

国際子ども図書館では、8月7日(火)から8月26日(日)まで、展示会「世界のバリアフリー児童図書展―IBBY選定バリアフリー児童図書2017」を開催します。

バリアフリー児童図書とは、本を読むときにページをめくったり、文字を認識したり、読んで理解したりすることにバリア(障害・障壁)がある子どもも障害のない子どもも共に楽しめるように、さまざまに工夫された本のことです。

今回の展示会では、IBBY(国際児童図書評議会)の各国支部が推薦し、IBBY障害児図書資料センターが2017年に選定した世界21か国のバリアフリー児童図書50作品を展示します。

触る絵本、手話をイラストで図解した本や、点字付きの絵本、障害のある子どもにも読みやすい本に加え、障害を理解するための本なども手に取ってご自由にご覧いただけます。

入場は無料です。バリアフリー児童図書の魅力をぜひ体験してください。

○開催期間 8月7日(火)～8月26日(日)

※月曜日、8月11日(祝・土)、8月15日(水)は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

## ○問合せ先

国際子ども図書館資料情報課 展示係  
電話 03(3827)2053(代表)



世界のバリアフリー児童図書展ポスター

## 平成30年度全国書誌データ・ レファレンス協同データベース活用研修会

公共図書館、学校図書館等の職員を主な対象とし、標記研修会を開催します。この研修会では、国立国会図書館が提供している全国書誌データをご利用いただくための具体的な方法と、レファレンス協同データベース事業の概要や事業に参加する利点をまとめて知ることができます。受講者のみなさまには、全国書誌データを用いた文献リスト作成や、レファレンス協同データベースへのデータ登録等を体験していただく予定です。

## ○東京本館会場

日時：8月3日(金) 13時～17時  
会場：東京本館新館3階大会議室  
定員：30名  
申込締切：7月27日(金)

## ○関西館会場

日時：8月17日(金) 13時～17時  
会場：関西館1階第1研修室  
定員：30名  
申込締切：8月10日(金)

内容の詳細および申込方法は、レファレンス協同データベース(<http://cd.ndl.go.jp/>)のお知らせをご覧ください。

## ○問合せ先

関西館 図書館協力課協力ネットワーク係  
電話 0774(98)1475  
電子メール [info-cr@ndl.go.jp](mailto:info-cr@ndl.go.jp)



#8 東京本館回廊

## 平成30年度資料保存研修

国内の各種図書館員等を対象に、資料保存に関する基礎的な知識と技術の習得を目的として、資料保存研修を実施します。

○会場・日時

東京本館新館3階大会議室 9月6日(木)、7日(金)  
関西館1階第1研修室 9月28日(金)  
各日9時30分～16時30分(各日とも同じ内容です。)

○対象 国内の公共図書館、大学図書館、専門図書館等に勤務する方

○内容 講義：図書館資料の保存

実演：簡易帙を作る

実習：①簡易補修②無線綴し本を直す

③外れた表紙を繋ぐ

○持ちもの えんぴつ、エプロン

○定員 東京本館52名(各日26名)、関西館20名

1機関からのお申込みは1名までとし、申込多数の場合は調整させていただきます。

○申込期間 7月3日(火)10時～20日(金)17時

○申込方法 当館ホームページの「図書館員の方へ」図書館員の研修▽平成30年度の研修▽平成30年度資料保存研修のご案内」からお申し込みください。

○問合せ先 収集書誌部資料保存課

電話 03(35006)5219(直通)

電子メール hozonka@ndl.go.jp

## 中高生向け講演会

### 「図書館で！ネットで！楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」

国際子ども図書館では、中高生向けの読書活動推進の取組の一環として、人間文化研究機構国文学研究資料館との共催で講演会を開催します。中高生にも身近なデジタル資料を使って江戸時代の料理本を読み解きながら、古典籍の魅力や活用法を探ります。当館職員によるブックトークもあります。

また、料理や食生活などに関連する江戸から現代までの本の展示も行います。

【講演会】

○日時 平成30年8月2日(木)14時～16時

○会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1

○対象 中学生・高校生

○講師 山本和明氏(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター副センター長・特任教授)

○定員 70名(事前申込制・先着順)

○参加費 無料

【展示】

○日時 平成30年7月24日(火)～8月9日(木)

○会場 国際子ども図書館レンガ棟2階調べもの部屋

○問合せ先

国際子ども図書館児童サービス課

電話 03(3827)2065

内容の詳細および申込方法については、国際子ども図書館ホームページの「展示会・イベント」イベント情報▽これからのイベント」をご確認ください。

## 新刊案内

### レファレンス 808号

旧皇室典範における男系男子による皇位継承制と永世皇族制の確立

異次元金融緩和をめぐる論点—黒田総裁下の5年間

を振り返って—

地方消費税の清算基準をめぐる経緯及び論点

## カレントアウェアネス 336号

市民と「設計」した公共空間

—太田市美術館・図書館における基本設計ワークショップ—  
大阪市立図書館デジタルアーカイブのオープンデータの利活用促進に向けた取り組み

資料を守り、救い、そして残すために

—東京都立図書館・資料保存の取組—

中国における公共図書館法の制定

学校と公立図書館の連携による学校図書館の活性化  
慶應義塾大学「からだ館」10年間の歩み

—図書館を拠点にした健康コミュニティへの総合的アプローチ—

ローチー

スタンフォード大学東アジア図書館の日本に関する試験的  
ウェブアーカイブ・プロジェクトの2年間の歩み

△動画レビュー▽

ビデオゲームの目録作成とメタデータモデルを巡る研究動向



A4 28頁 季刊 400円(税別)  
発売 日本図書館協会



A4 70頁 月刊 1,000円(税別)  
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒1104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

# 7/8

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2018.7/8

NO.687/688

JULY/AUGUST  
2018

## CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
*Rien no aki and Ashi no soyogi:*  
two books on popular kabuki troupe *Torikuma Shibai*
- 04 53rd Committee on Designation of Rare Books  
Materials recently designated as rare books
- 13 Strolling in the forest of books (17):  
Sumo of the late Edo period from the eyes of a popular writer  
Materials on sumo written by Tatekawa Enba
- 20 Browsing library materials — Reading Japanese written in variant kana 7  
Letters written in variant kana
- 12 <Tidbits of information on NDL>  
Looking at rare books and old materials through monitor screens
- 26 <Books not commercially available>  
*Tokeiyasan no showa nikki: Ichi seinen no mita senchu sengo no yokohama*
- 27 From The 70-anniversary Commemorative Exhibition — A Treasure Box of Books:  
The History of the National Diet Library and Its Collections  
*Ai no fantaji*
- 28 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成30年7/8月号 (No.687/688)

平成30年7月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集責任者 三浦良文

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)  
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2018.7/8

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六